

取組みの主な進捗状況

生活のDX

保健医療分野のDXを推進



県は株式会社ザ・ファージと、AIを活用したデータヘルスと医療DXの推進に向け、2月に協定を締結しました。今後は糖尿病の重症化予防を目的に、小型センサーを体に張り付け、血糖値データを収集・分析し、個人に合わせた治療や予防行動につなげ、県民の健康づくりを促進します。同社は取得したデータを活かし、血糖値の解析予測AIの開発を目指します。

地域課題解決に向けた実証の成果発表会を開催

民間事業者の先進的な技術やサービスを活用して県内の地域課題の解決を目指す、CO-FUKUI未来技術活用プロジェクトの成果発表会を3月に開催しました。

当日は「福祉施設における現金管理事務の効率化」や「ノーコードを活用した中小企業のDX化」などの実証成果が発表されました。今後も官民共創で、地域課題の解決を進める取組みを行っていきます。



産業のDX

ドローンを活用した施肥で稲の収穫量が増加



異常気象や資材費の高騰で経営が厳しい状況にある稲作経営体では、省力化を図りながら収量を向上させるという課題があります。農業試験場では、ドローンを用いて、空撮画像から稲の生育量を推定し、適正な肥料の量を診断する技術を確立しました。画的に肥料を施していた従来よりも、収量の向上と肥料代の削減が確認されました。今後も研究を進め、DX化による収量向上を目指します。

福井県観光アプリ「空間ふく巡り」が提供開始

仮想空間で福井県の観光案内を行うApple Vision Pro向けアプリ「空間ふく巡り」が1月から提供開始しました。現実の空間に、東尋坊など観光地がバーチャルに再現され、あたかも現地を訪れているかのような疑似体験が得られます。また、オープンデータを活用し各スポットの紹介文や鮮度の高い口コミ情報を見ることができ、今後新しいテクノロジーを活用し、福井県の観光振興に繋がります。



行政のDX

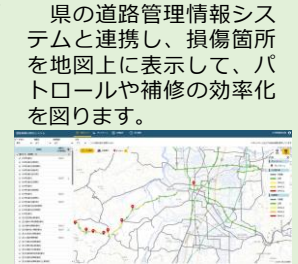
手続きナビゲーションシステムの運用を開始



県および県内4町（南越前町、美浜町、高浜町、おおい町）では、結婚や引越時に必要となる手続きを、いつでも・どこでも・簡単に案内してくれる『手続きナビ』の運用を開始しました。必要な手続きを探す手間がなくなり、役所を訪れる回数や時間を削減できるなど、手続きに係る負担の軽減を目指します。

AIで道路管理を効率化

道路管理を行う際、パトロールにて道路の穴ぼこやひび割れ等の損傷を目視で確認していますが、損傷箇所の確認等に時間がかかることが課題になっています。そこで県では、道路の損傷をAIにより自動で検出するシステムの運用を4月から開始します。



最近の県内の動き

道路台帳情報をオンライン化

福井市は、市道の路線名や幅員といった道路台帳の情報や、除雪路線図をオンラインで確認できるシステム「ふくいマップ」を構築しました。

これまでは市役所窓口に行き、手数料を支払ったうえで、道路台帳等の情報を取得していましたが、オンライン公開により窓口への来訪・手数料の支払いが不要となりました。

今後もDXで、利便性向上や行政の業務効率化を進めます。



若狭町の高齢者健康支援取組が日本オープンイノベーション大賞特別賞を受賞

若狭町にて実施したIoT機器を活用した高齢者の健康支援の取り組みが、日本オープンイノベーション大賞の特別賞を受賞しました。

高齢者がIoT機器を活用して体の状態に合わせたトレーニングや管理栄養士による食事指導を受けることにより、筋肉量や骨格筋指数の増加ならびに健康意識の向上等を確認しました。

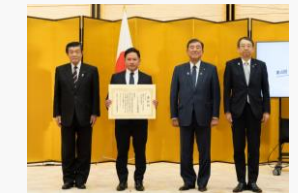


本プロジェクトは今後も若狭町・大学・企業が連携し、産学官それぞれの強みを活かして、町民の健康増進に取り組んでいきます。

ふくいMaaSがデジ田甲子園でベスト4

デジタル技術を活用した地域課題の解決事例を競う「Digi田（デジデン）甲子園」にて、嶺北地域11市町で構成するふくい嶺北連携中核都市圏や交通事業者などの産官学金言による「ふくいMaaS」の取組みがベスト4に選ばれました。

時間制切符の実現やデジタル切符の予約・決済が既存の「ふくアプリ（利用者約17万人）」で行える点が評価されました。



▲首相官邸での授賞式の様子 (左から2人目:ふくいMaaS協議会 浅野会長)

今後もデジタル技術を活用し、嶺北地域の2次交通の利便性向上に向け、取り組んでいきます。